



# クラブインフォメーション

発行:(公財)鳥取県スポーツ協会 〒680-8570 鳥取市東町1丁目220番地 鳥取県議会棟別館内



TEL:0857-26-7802 FAX:0857-26-8133 E-mail:tabuchi-h@sports-tottori.com 令和5年3月 第163号

## ユニバーサルスポーツ体験会:サンリンク・スポーツ



【ボッチャ体験】

令和5年2月6日(月)、倉吉市営体育センターでサンリンク・スポーツ協賛で倉吉市スポーツ推進委員※1を対象に「ユニバーサルスポーツ※2」の「ボッチャ※3」と「ペタンク※4」を体験していただきました。

※1 スポーツ推進委員は、当該市町村のスポーツ推進のために、教育委員会規則の定めるところにより、スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに、住民に対する、スポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導、助言を行う非常勤職員です。

※2 ユニバーサルスポーツとは、高齢になっても障がいがあっても、大人でも子どもでも、みんなが一緒に参加し、活動できるスポーツ

※3 ボッチャ:ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6個ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

※4 ペタンク:ピュット(目標球)と呼ばれるボールに、赤・青のそれぞれ6個ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

倉吉市には13の地区があり、49名のスポーツ推進委員さんが登録されています。今回の体験会にはその中から23名のスポーツ推進委員が参加し、「ボッチャ」と「ペタンク」のルールとやり方を学んでいただきました。

ボッチャの指導には、サンリンク・スポーツの杉谷さんが当たられ、初めて体験する方が多かったですが、ルールとやり方の説明後、3人ずつのチームに分かれて実践しました。

「ボッチャ」も「ペタンク」も誰でも気軽に楽しんでもらえるスポーツです。是非、地域で普及していただき、たくさんの人にスポーツの楽しさを知っていただけたらと思います。



【室内ペタンク】

連絡先

サンリンク・スポーツ事務局 杉谷 哲治

TEL:090-6436-9196 E-mail:sanrink\_sugi@yahoo.co.jp

## 障がい者スポーツ鳥取モデル構築事業：サンリンク・スポーツ



【ボッチャ(令和5年2月4日)】

令和5年2月4日(土)・25日(土)、県立倉吉養護学校でサンリンク・スポーツ主催の「障がい者スポーツ鳥取モデル構築事業※」を開催しました。

※目的 特別支援学校の学校体育施設を拠点として、特別支援学校の在校生及び卒業生、地域住民が、障がいのあるなしに関わらずスポーツの楽しさを共に味わいながら、体力の向上や豊かな生活の実現、共生社会の実現を目指す。

### 【2月4日(土)】

□内 容 ボッチャ※1

□指導者 杉谷哲治さん、平井明朗さん、桑名優子さん

※1 ボッチャは、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白い球に、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

参加者を、3人ずつの6グループに分け4エンドずつの総当たり戦を行いました。生徒の中には、何度もジャックボールにベタ寄せし、皆を驚かせました。グループ内で作戦を立てながら、和気あいあいとした雰囲気の中でプレーしていました。



【ヒップホップダンス(令和5年2月25日)】

### 【2月25日(土)】

□内 容 ヒップホップダンス※2

□指導者 松本亜矢さん

※2 ヒップホップダンスは、ストリートダンスの中でも代表的なダンスの一つで、基本はヒップホップの音楽やビートに合わせて踊りますが、どんなジャンルの音楽でも、自由に踊れるダンスです。

最初にウォーミングアップで体を温めたあと、ワンフレーズずつで、簡単な振り付けを教えてもらい、最後に皆の前で、通してダンスを披露しました。

短時間で曲に合った振り付けをマスターし、皆の前で踊ることはすごく度胸のいることですが、皆頑張って踊りました。身体を動かすことの楽しさや達成感を感じてくれたかな。

今回は、松本さんが指導する“ダンススタジオD・M・K”の生徒さんに、プロ級のダンスを披露していただき、皆釘付けでした。とてもかっこよかったです。あんな風に踊れたら気持ちいいだろうなあ。

連絡先  
サンリンク・スポーツ事務局  
杉谷 哲治  
TEL:090-6436-9196  
e-mail:sanrink\_sugi@yahoo.co.jp

## 令和4年度鳥取ユニバーサルスポーツセンターノバリア 中部サテライトセンター整備事業:サンリンク・スポーツ



【ボッチャ】

令和5年2月9日(木)、倉吉市営体育センターで「令和4年度鳥取ユニバーサルスポーツセンターノバリア中部サテライトセンター整備事業※1」として、サンリンク・スポーツ主催でユニバーサルスポーツを実施しました。

※1 目的:鳥取県中部地区において、障がい者が気軽にスポーツをすることができる環境の整備を行い、障がい者のスポーツ実施をサポートする。障がい者スポーツ教室を実施することにより、それをサポートする人材を育成する。障がい者と健常者、子どもから高齢者まで、誰もが共に・気軽にスポーツに楽しめる環境を整備、提供を行う。

2月は、「ボッチャ※2」と「モルック※3」を体験していただきました。

※2 ボッチャは、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白い球に、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

※3 モルックは、モルックと呼ばれる木の棒を投げて、スキttl(木製のピン)の倒れた合計得点が50点ぴったりに得点したチームが勝ちとなるゲームです。

参加者を3人ずつのグループに分け、「ボッチャ」は4エンドを2回、「モルック」は3ゲーム行いました。

今回は、大山町で地域活性化に取り組む、「SFIDA—DAISEN A. C.」代表の井上達也さんも参加され、倉吉市で地域活性化に取り組むサンリンク・スポーツの活動を体験され、参加者と一緒に楽しめました。

こうした同じ思いを持った団体が連携して、活動の場がどんどん広がっていくといいですね。

3月は、3月2日・9日・23日に開催する予定です。



【モルック】

連絡先  
サンリンク・スポーツ事務局  
杉谷 哲治  
TEL:090-6436-9196  
E-mail:sanrink\_sugi@yahoo.co.jp

# 令和4年度保護者 & 指導者向けセミナー: スポnetなんぶ



セミナー風景(南部町総合福祉センターしあわせ大会議室)

令和5年2月11日(土)、スポnetなんぶ主催の「令和4年度保護者 & 指導者向けセミナー」が南部町総合福祉センターしあわせ大会議室で開催されました。

[講師]: 小山 英樹さん

(株式会社対話教育所代表取締役・

一般社団法人日本教育メソッド研究機構代表理事)

[講演会の内容]

□保護者の部

テーマ:『やる気と能力を引き出す子育て方法』

□指導者の部

テーマ:『ティーチングからコーチングへ』



なかよタイム



お互いにどんな質問をするか話し合う



自分を許してあげる(頭なでなで)

保護者の部では、人間は総(宇宙)である。ありとあらゆる要素を持っている。その良いものを引き出せることが教育である。親の役割は、思考と対話の機会を提供すること。「傾聴・質問・承認」を繰り返すことで家を安心して過ごせる場所にする。子どもの必須栄養素は「愛」と「信頼」である。子どもの限界を決めつけているのは大人。可能性を引き出してあげて、幸せになれば。

指導者の部では、生きていくために必要な「非認知能力」(人間力)の重要性のお話や、指導者としての関わり方の改善点・やろうとしたけどできなかった子どもに対してなど様々な場面でどのような質問をするか、参加者同士で話し合いました。人は「総」。人に無いものは無い、全ての人が、ありとあらゆる資源・能力を持っている。「総」から何を引き出すか、それを決めるのが「対話」です。「対話」の質を高め、色んな「好き」を相手から、自分自身から引き出そう。

傾聴の「聴す」は「ゆるす」と読み、受け取って相手の存在受け入れる。「話す」は「放す」であり、「離す」である。全身を耳にして受け取ってから質問(何?)をする。

改めて子どもへの傾聴・質問の仕方を考えさせられました。子どもの可能性も無限であることも。(反省!)

いくつになっても、学ぶことの大切さを実感しました。

連絡先

スポnetなんぶ事務局

板 真悟

TEL:0859-66-5400

E-mail: shiawase01@suponetnanbu.com

# 令和4年度保護者&指導者向けセミナー:NPO法人ウルトラスポーツクラブ



セミナー風景(境港市商工会議所)



熱く語るスタッフの小原さん



タイプ別にどうい言葉かけをするか検討中

令和5年2月12日(日)、NPOウルトラスポーツクラブ主催の「保護者&指導者向けセミナー」が、境港商工会議所で開催されました。

[講師] 小山 英樹さん

(株式会社対話教育所代表取締役・

一般社団法人日本教育メソッド研究機構代表理事)

[講演会の内容]

□午前の部:キッズ～小学5年生の保護者

テーマ:「愛と◇◇で引き出すやる気と能力

□午後の部:小学6年生～中学3年生の保護者と指導者

テーマ:「生きる力を育む大人の関り

色々な画像を見て何が描かれているか、どんな形をしているか、どういう状況にあり改善点は何か、文章の空白の部分に何が入るか、小山さんが出すお題に対して、制限時間内にいくつ言えるか等各々で考え、参加者同士で意見交換しました。

そこで、大人は思い込みで生きていることに気づかされました。頭を柔軟にし、子どもをプラス面とマイナス面の両方から広い視野で見ること、たくさんのアイデアの中からその場のあった対応を決めることが必要であることが理解できました。

子どもの成長と共に、子どもに対する大人の関わり方が大切になってきます。

家庭や学校が子ども達にとって安心・安全な場所になるように、子ども達の悩みに対して、このセミナーに参加された方は広く学ばれました。

子ども達のやる気を引き出す言葉かけや、子どもが不安な時、心細い時、失敗した時等、温かく迎えてやれる場所『安全基地』になってやるのが大人の役割だと思いました。

※代表の小山英樹さんが、教育業界で活躍している素敵なゲストを招いて、教育現場における活動内容や実際のエピソードを交えながら、一緒に「教育」について、楽しく、ゆる〜く、語り合い、学び合う様子を全国のみなさんへお届けしている「えでゅらじ！」に金坂さんが出演しています。是非ご覧ください。



「えでゅらじ！」

<https://youtube.com/@user-vr6iq8wo6x>

連絡先

NPO法人ウルトラスポーツクラブ事務局

金坂 博

TEL:0859-57-5170

E-mail:ultra-cs@sea.chukai.ne.jp

# 令和4年度県民まるごとスポーツ推進事業:琴の浦クラブ

## 【体づくりメニュー】



体幹ストリームを使った腹筋トレーニング



メディシンボールを使ってスクワット



片手・片足プランク

令和5年2月18日(土)、琴浦高等特別支援学校体育館で、琴の浦クラブ主催の「県民まるごとスポーツ推進事業:みんなdeユニスポ」で「体づくり教室」と「モルック体験会」を開催しました。

【参加者】 9名

【指導者】 上田祐吉さん、中尾有香里さん(体づくり)  
杉谷哲治さん(モルック)

【内 容】 体づくり、モルック

初めに、ランニング、柔軟体操、体幹トレーニングなどで体づくりを行った後、「モルック」を体験しました。

サンリンク・スポーツの杉谷さんから基本フォームやルール説明(点数の考え方、モルックが完全に倒れていない場合、50点を越えた場合、3回連続失敗した場合など)を受け、3人ずつの3グループに分けチーム戦を行い、3ゲームの合計得点で順位を決めました。

モルックは全員初めての体験でしたが、スキttlを狙う姿は真剣で、狙いを定めてスキttlを投げて、見事命中させる人や、3人連続で失敗して失格になるチームもありましたが、とても盛り上がりました。

また、違ったユニバーサルスポーツに挑戦してみてください。



【モルック体験】

連絡先  
琴の浦クラブ事務局  
上田 祐吉  
TEL:0858-55-6477  
E-mail:yukichi3325@chukai.ne.jp

# 令和4年度総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク) 総会を開催しました

令和5年2月20日(月)、「令和4年度総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)総会」が、JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE(web併用)で開催されました。

## 【内容】

### 1 議事

#### 〈協議事項〉

- (1) 総合型地域スポーツクラブ育成プラン2023-2027の策定
- (2) 令和5年度総合型地域スポーツクラブ育成計画・予算
- (3) 令和5年度SC全国ネットワークの取組

#### 〈報告事項〉

- (1) 令和4年度SC全国ネットワークの取組実績
  - ・企画部会
  - ・広報部会
  - ・男女共同参画部会
- (2) 登録クラブ処分細則 処分基準(令和5年2月20日現在案)
- (3) 令和5・6年度SC全国ネットワーク代表委員の選出状況

### 2 情報共有プログラム

#### テーマ「運動部活動との連携に向けて」

- (1) 趣旨説明
- (2) 日本スポーツ協会からの情報提供
  - ・運動部活動の地域移行を踏まえたJSPOの具体的施策
  - ・総合型クラブと運動部活動との連携に関する調査結果
- (3) グループディスカッション

#### テーマ:「運動部活動との連携に向けて」

- ・「指導者の確保」「活動にかかる経費の獲得」「学校との連携」「活動施設の確保」について、7グループに分かれて総合型クラブの支援となり得るようなアイデアを出し合った。

#### (4) 全体共有(出た意見)

→今ある部活動外部指導者の助成がまわせないか。送迎の問題、コーディネーター・事務局の人員費など公的財源が必要。行政との連携がないと経費の工面が厳しい。総合型クラブが受け皿になる場合、事務的な負担等出てくるため、クラブにも収入がないと受けられない。国のモデル事業が終わった後の方向性が見えてない。ガイドラインが決まってないため方向性が見出せない。教育委員会とスポーツ課との連携、話し合いが必要。学校の理解が必要。学校が知らなさ過ぎる。学校が理解していないため、どのクラブと関わればいいのか見えてない。指導者の確保、学校・行政との連携が取れていない。大学生の活用の検討。スポ少・教育委員会との連携がないと厳しい。教育委員会との繋がりが弱い情報が入って来ない。学校という場所があるのに何故借られないのか。部活動に指導者を派遣するのであれば施設の確保は問題ない。合同で行う場合送迎の問題がある。総合型クラブ以外の単一クラブが増えた場合、施設確保が難しい。スポ少の若い指導者とどう連携していくか。指導を生業として成り立たない。小学校と中学校の指導するスキルが違う。

#### (5) 総評

##### 〈松田雅彦氏〉(学識経験常任幹事)

ジュニア期のスポーツ環境が悪くなっている。総合型クラブで多種目・多世代・多志向になっていないクラブもある。以前は中学校区に1つの総合型クラブを作ろう！だったはず、小さい町から進めて行き、町づくりを目標として本質課題を出して、ターゲットを決めてどう解決するか、地域と学校が考えていく。行政は人を集めて答えを出す環境を作る。子どもの困っていることをクラブで何とかしよう！最初の一步を踏み出すと課題が見えてくる。学校部活動をきっかけに地域がまとまる。

##### 〈伊端隆康氏〉(SC全国ネットワーク幹事長)

学校部活動をきっかけに行政との連携を深め、難問だがクラブとしてできることから関わっていこう。

学校部活度に関して、関係団体間での連携が不十分で、はっきりとした方向性が定まっていません。まずは、関係団体が学校部活動の地域移行に関して理解し、問題点等しっかり議論して対応していただきたいと思います。